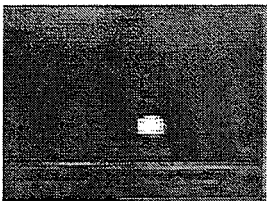
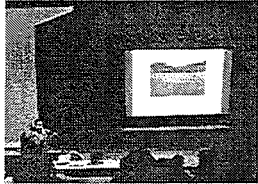


4. 商店街活性化、産業振興、地域おこし

タイトル	商店街のまちづくり	分野	都市づくり、商店街活性化
実施校・学年	静岡県清水市立西河内小学校(授業企画)	参加・協力者	未定
授業内容・ 進め方	1. 清水市の中心商店街の昔と今を比較 ●昔の写真を提示 (発問)何の写真でしょう。これは何でしょう →七夕祭りです 大売出しです… 説明:いつもいろんな催しが行われ、まるで銀座のように賑わっていたので「清水銀座」が誕生しました ●今の写真を提示 <指示>今の清水銀座です。気づいたこと、分かったことをノートに書きなさい (発問)これは日曜日の午後3時の様子です。どんなことを思いますか (→指名して答えさせる) 説明:日曜日なのにお客さんがあまり来ないので、シャッターを閉めている店があります。止めてしまったお店もあります。 2. 清水銀座の商店街活性化の取り組みを紹介 ●変わる前の清水銀座の写真提示 (発問)清水銀座が変わる前の写真です。あなただったらどこをどんな風に変えますか (→数名に指名) 説明:清水銀座では、こんなところを変えました ●実際に変えたところの写真を提示、1枚1枚説明 説明:電柱を地下に埋めました。看板を整理して空が明るくなりました。車がごちゃごちゃしないようにパーキングチケットを置きました。おしゃれな街灯、お花、ベンチ、灰皿、モニュメント。これは「まちづくり」と呼ばれているものの一部です。  ●「巴流通り」という表示を見せる (発問)もうひとつのまちづくりとして、名前を変えました。なんと読むでしょう。 説明:「ばるどおり」と読みます。たくさんの人にアンケートをとって、一番多かったものです。(以下、名前の由来である「巴流号」での太平洋大西洋横断について解説) ●シャッターの閉まっている店を提示 説明:「巴流通り」のまちづくりはまだあります。 ここに新しいお店のアイデアを募集して、本当にお店を作ろうということです。 (発問)みんなだったら、ここにどんなお店を作りたいですか? みんなの考えたお店が本当にできるかもしれません。そしてそのお店が、通りを盛り上げるかもしれません。今度の時間は、お店を考えましょう		
報告形式	静岡シンポジウム／模擬授業		

タイトル	長井市の産業とまちづくり	分野	地域おこし、産業振興
実施校・学年	(授業企画)	参加・協力者	未定
授業内容・ 進め方	1. 山形県長井市の地域産業の現状を知る ●長井市の景観、市企業振興課横山氏の写真提示 説明: 山形県長井市の地場産業が海外の安い労働力に仕事を奪われるようになり、このままでは仕事が無くなり、まちもなくなかねない危機感を持った一人の市役所職員が「基盤技術」(他にまねできない高度な技術)を育てなければならないと考えたこと ●東京都内の高度技術を持った中小企業の作業場、製品の写真提示 (発問) 東京都の北島絞り製作所です。何の部品を作っていると思いますか → (指名) 説明: 宇宙ロケットの先端部分。機会より正確な手作業で作っていること。日本の基盤技術は世界のトップクラスで、世界中から注文が来ること 説明: 「このような基盤技術が長井市にもあるはず。横山さんたちは長井市を調べました。その結果あることが分かったのです。『長井市には基盤技術がほとんどない!』」 2. 基盤技術育成への取り組み方 (発問) 皆さんならこのあとどうしますか。諦めるという人、諦めないという人 → (挙手) 回答・説明: 「横山さんたちは諦めませんでした。基盤技術を持った人材を育てようということで、行政、企業が中心となってNAGAI次世代マイスター育成協議会を作りました」 (発問) 協議会では、親子ものづくり教室やマイスター塾を始めました。もうひとつの活動は何でしょうか。3つのものから選んでみましょう(1. 高校の支援 2. 新入社員の研修 3. 大企業からの引き抜き) → (挙手) 回答・説明: 「1. 高校の支援です。でも長井工業高等学校は生徒が少なくなっていて、廃校の危機にありました」 説明: 技能検定への挑戦、講師、協議会からの測定具の寄付について説明。「寄付は電算科の予算6年分です。やるしかありません。生徒も先生も一丸で取り組み、生徒は毎日夜遅くまで、夏休みもがんばりました」 ●技能検定証書の写真提示 説明: 「そして山形県初の高校生技能士が誕生しました。以来毎年合格者を出しています。そして協議会支援のもとに各種大会で優秀な成績を収めるようになりました」 (発問) 測定具のお金や大会参加費用はどうしたと思いますか ●長井市のテレホンカードの写真提示 回答・説明: 協議会の援助のほか、テレホンカードを売って作ったこと。50度 1000円が15,000枚売れたこと。市(人口32,000人)の半分が協力したこと。 3. その後について(高校の存続、まちへの波及効果など) 説明: 就職率100%になったこと。8割が地元就職。入学希望者が120%になり、高校の存続が決まったこと。 ●複数の進出企業の写真を提示 説明: まちへの効果: レンズやF1マシン部品プレス機などで世界シェアの高い技術を持つ企業などが、まちと学校の結びつきに着目し、進出してきたこと。個々の企業の優れた製品、地元高校の就業率が高い等 ●横山さんの写真と言葉、長井工業高校校舎のスローガン提示 (横山さんのことば) 「長井市は交通の便もよくなく、広く知られた企業もなく、研究機関もない。使える資源は『人材』だけだったのです」。高校のスローガン「長工生よ、地域を潤す資源となれ!」		
報告形式	神奈川シンポジウム／模擬授業		

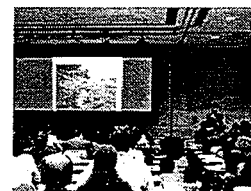
タイトル	日本一のまちづくり授業	分野	地域おこし
実施校・学年	(授業企画)	参加・協力者	未定
授業内容・ 進め方	1. 地域おこしの核となる地域の資源に注目させる ●愛媛県双海町の地図、30年前の町と現在の町の写真を提示 まちの変化に注目させる (発問) この町では、あるものをまちづくりの中心において、これにこだわってきました。それは世界中にあるものですが、それは何だと思いますか。 →海、みかん、うどん … 説明: 正解(●きれいな夕日の写真)を提示  2. 「夕焼け」にこだわったイベントを企画した役所の取り組みを紹介 (発問) 夕焼けのもとでコンサートを開こうと考えたのですが、 いったいどこでコンサートをひらいたのでしょうか →海岸、海の上 ●海岸の写真を提示(海岸という答えを想定し、海岸の狭さを教える) (発問) 海岸は狭く、すぐ後ろは山で、汗顔ではできませんでした。さて、いったい どこでコンサートをひらいたのでしょうか →海が見える山、海の上 ●実際の開催地(駅のプラットフォーム)の写真提示 説明: 「悩んだ挙句、ここにしました。コンサートには約 1000 人もの人が集まりました」 3. 地域おこしを発案した人と、住民の受け止め方などを説明 (発問) この大成功したコンサートは役所の地域振興課が企画、実行しました。このよ うなイベントを計画した職員は何人くらいだと思いますか 説明: 実は若松進一さんただひとりです。 (発問) 若松さんはこのコンサートをきっかけに一人で夕日を中心にすえたまちづくり を進めることにしました。住民は賛成したでしょうか、反対したでしょうか →(数名に指名) 説明: 住民の意見は「夕日で飯が食えるか」「夕日が金になるか」「夕日のような沈む町を 作ってどうするのだ」ということでしたが、こんな反対意見の中、若松さんは企画を 進めていきました。 4. 夕日を中心にすえた企画を考えさせる ＜指示＞皆さんなら、どんな企画を考えますか。思いつくものをたくさんノートに書き ましょう 説明: 若松さんが考えた企画を紹介。若松さんの言葉、「日本一の夕日に育てたい。少し でも自分の町を誇れる町にしたい」という熱意を紹介。 (呼びかけ) これから大人になる皆さんも、「誇れる町」を作っていってもらいた いと思います		
報告形式	静岡シンポジウム／模擬授業		

タイトル	日本で一番有名な村	分野	地域おこし、観光、スポーツ振興
実施校・学年	(授業企画)	参加・協力者	未定
授業内容・ 進め方	1. 日韓W杯でカメルーンチームのキャンプ地となった 大分県中津江村の誘致への取り組み内容、成功の鍵を知る  :アクセスが悪く行政規模の小さな村の成功のポイントについて 特に練習場の「芝」の質を誘致のカギとしたこと、また管理費 を抑えるために、センターの所長が勉強したこと。 村一丸となったボランティア活動、ホスピタリティについて、理解させる (以下の写真を見せながら、上記について発問、考えさせ、説明していく) ●村の地図、スポーツセンターの芝、カメルーンチーム歓迎の様様 ●村へのアクセス地図、スポーツセンター ●村民ボランティア活動、村長の村セールスの様子 2. 小さな村の取り組みの様子と到着遅れハプニングが、ニュースを賑わしたこと ●大挙して押し寄せた報道陣の写真 3. 波及効果、後日談 ●今の売れているカメルーン弁当、本、集客の増えた鯛生金山(村唯一の観光地)の写真 ●流行語大賞の写真 説明:周辺との合併で地図上から名前が消えるが、人々に与えた感動は語り継がれる		
報告形式	神奈川シンポジウム／模擬授業		

5. 環境・循環型社会

タイトル	江戸のまちづくりに学ぶ	分野	循環型社会の都市づくり
実施校・学年	(授業企画)	参加・協力者	未定
授業内容・ 進め方	1. 江戸のまちの規模、問題点の想定 ●19世紀のパリ、ロンドンの街並みの写真(各人口提示) ●19世紀の江戸のまちの写真提示 (発問)これはどこのまちですか →江戸です (発問)19世紀の江戸の人口はどのくらいでしょう。 ノートに予想を書いてもらなさい →(指名) 説明:19世紀の江戸は人口130万人。世界一の大都市でした。 江戸 130万人 (発問)当時の江戸にはどんな問題があったと思いますか。ノートに書いてもらなさい 2. 江戸のまちづくりの説明 ① 飲み水(神田上水、玉川上水の説明) ② し尿、ごみのリサイクル状況(下水道、ごみ処理問題がない) ③ 耐火建築(土蔵造り)、高さ制限 ④ 公園整備(お花見のできる公園や桜堤) 3. 江戸と田園都市レッチワース、浜松の関係 ●当時のイギリス人が江戸について記述した内容の紹介(緑や街並みへの高い評価) ●レッチワースにソメイヨシノの並木があることを紹介 (発問)ここまで聞いてどんな感想をもちましたか →(指名) (発問)東京に「浜松町」があります。なぜだと思いますか 説明:江戸のまちづくりには遠江、三河、駿河の人々が大きく関与したといわれており、遠州浜松からも多くの人が江戸に行ったこと。「浜松町は江戸のまちづくりに賭けた浜松人の足跡であるということ		
報告形式	静岡シンポジウム／模擬授業		

タイトル	「ビオトープ」から「まちづくり」に参画する	分野	緑・自然、環境
実施校・学年	(授業企画)	参加・協力者	未定
授業内容・ 進め方	1. 「ビオトープ」とは何か ●「ビオトープ」の工事現場写真提示 (発問)何を作っているでしょう→ダム、コンクリート、用水路、公園 … ●工事前、工事後の写真提示 (発問)工事前と後を比べて、思ったことを書きなさい →自然が増えた、工事をしたら川が生き返った感じ … 説明:工事をする前の川が三面コンクリートで、限られた生物しか棲めなかった。今は、いろいろな動植物がバランスよくある。 (発問)このようにさまざまな生物がバランスよくすんでいる場所、空間をなんというか知っている人? → ビオトープ ●太田市強戸にあるビオトープの写真、太田市のビオトープ事業のパフレットなど 説明:このビオトープの所在地。太田市の都市計画マスタープランの中にビオトープづくりがあること 2. ビオトープと地球温暖化の関係 (発問)ところで、ビオトープにはどんなよいところがあるのでしょうか。ノートにできるだけたくさん書きなさい。 → 自然や生き物が増える、遊べるところができる… ●ビオトープに棲む動植物の写真提示(ゲンジボタルなど) 説明:(ビオトープの役割の説明)たくさんの動植物が見られるようになったり、絶滅しかけた生き物も守られるようになったこと。遊んだり、観察や調査ができること。豊かになった緑が、安らぎ、防風・防音・保水効果や、CO₂が吸収され空気がきれいになること。 (発問)この二酸化炭素を酸素に変える働きは、地球規模で起きているある環境問題の進行を止めるのに有効ということ注目されていますが、ある環境問題とは何ですか → 「地球○○○」(丸に漢字をいれさせる:温暖化) 説明:二酸化炭素が地球を温暖化する仕組み (発問)地球温暖化の影響で起きるか、起きると予測されている問題にはどのようなものがあるでしょう。ノートに書きなさい →気温上昇、異常気象、干ばつによる不作、氷河が溶ける、海面上昇… ●気温の上昇グラフ、異常気象、氷河の溶ける様子、干ばつで農作物が被害を受けている写真等を提示 説明:地球温暖化の具体的な影響を説明 3. ビオトープの重要性認識、ビオトープの構想づくり 説明:CO₂を酸素に変える働きを持つビオトープをつくることは、こうした問題の進行に歯止めをかけるために重要な手立てのひとつでもあること。太田市の今後のビオトープの整備計画 (発問)太田市にどんなビオトープがあるといいですか。構想図を描いてみよう。		
報告形式	群馬シンポジウム/模擬授業		



タイトル	資源循環型社会を視野に入れたまちづくりの授業	分野	環境
実施校・学年	(授業企画)	参加・協力者	未定
授業内容・ 進め方	1. ごみの燃焼とダイオキシン問題 ●一般ごみと生ごみの混ざった写真提示 (発問)ゴミの中に生ゴミが入っています。これを燃やすとある問題が生じるといわれています。どんな問題ですか →ダイオキシン ●ダイオキシンについて皆がインターネットで調べた図(体内に蓄積される循環図、毒性、塩化ビニルからの発生量など)を提示 (発問)ダイオキシンは塩化ビニルを含んだものから出されますが、どんな品物が塩化ビニルからできているでしょう。ノートに書きなさい → 説明:雨具、文房具、玩具、衣料品、建築材料、食品包装、電化製品その他具体的な製品のリスト提示「自分が書いたものがいくつありますか」 2. 向山式環境リサイクル図で問題点を整理 ●向山式環境リサイクル図(自然→資源→製品→ごみ→自然の循環図)提示 (発問)このサイクルがぐるぐる回っていれば問題はありません。でも、このサイクルが一箇所ブツンしています。どこでしょう → (回答:ごみから自然への流れ) (発問)これを解決するにはどうしたらいいですか。書きなさい → (発表させる) 3. 生分解性プラスチックの説明 ●プラスチックのコップ、シャンプーの容器、ごみの入った袋が分解されていく様子の写真提示 説明:普通のプラスチックでは、こんなに早く分解されません。ごみが自然に帰るような工夫をしているのです。 ●とうもろこし繊維で作ったものが微生物で分解される様子の写真提示 4. 群馬県での取り組みの紹介 ●群馬県上野村の生ゴミ用袋、下仁田町のプラスチック食器(長野オリンピックでも使われた)の写真提示 説明:群馬県の町村での生分解性プラスチック製品開発と、用途について説明 5. 資源循環型社会に向けた日本での取り組み ●新聞記事提示(公立学校などの給食用食器を生分解性プラスチックに切り替えていく政府の方針についての記事) 説明:「このように、資源循環型社会を視野に入れたまちづくりの動きは今後ますます高まっていくことになります」		
報告形式	群馬シンポジウム／模擬授業		

2-3 まちづくり教育実践内容についての考察

静岡・神奈川・群馬の3県で実施されたまちづくり教育について概観すると、次のような点が指摘できる。

①テーマは多岐にわたり、分野がクロスオーバーしているものが多い

静岡・神奈川・群馬3箇所で開催、企画されたまちづくり教育の内容をテーマ別に見ると、都市づくり全般にわたるものから、都市基盤整備（道路、交通）、駅前再開発、まちづくり協定と住民活動、都市景観・都市デザイン、福祉のまちづくり、商店街活性化、産業振興、地域おこし、緑・自然環境・水資源保全、環境（ごみ、ダイオキシン、地球温暖化問題）、循環型社会構築まで、今日の都市づくりの主要テーマとされるものが網羅されている。

防災・防犯のみをストレートに扱ったものは今回は見られなかったが、この理由としては以下の3つのことが挙げられる。1つは、従来の地域学習を超えた新しいまちづくり教育が緒に就いたばかりで、小学生に対し「まちづくり」を学習させるということでは、まず「地域を知る」「“まちづくり”とはどういうものか知る」「体験できる身近なこと（車椅子で町を移動するなど）から入る」「目の前にあるモノ（ハードな都市基盤など）から入る」という段階であることが挙げられよう。2つ目は、環境や福祉（バリアフリー）については、現在のわが国では社会的な大テーマとなっているため取り上げやすい一方、阪神・淡路大震災や池田小学校の事件など、つらく忌まわしい災害や事件は忘れない、小学生のテーマとしては“暗い”テーマは扱いにくいといった一般的風潮が背景として考えられる。そして3つ目は、最も大きな理由であるが、そもそも地域レベルのまちづくりは、「地域特性」に即したものであることと、「総合性」を持つという特性があることが挙げられる。すなわち、地域レベル（地域を単位とし、地域住民が深く関与する）のまちづくりでは、防災、あるいは防犯対策だけを目的としたまちづくりは考えにくく、安全で暮らしやすい地域の構築は、住環境、防災、防犯、福祉、コミュニティ、教育、レジャー、環境問題など、都市生活、社会生活に関わる全ての分野が関係するものであり、かつ、地域が抱える問題や地域住民の理想とするまちの姿は地域ごとに異なっている、ということである。今回小学校の先生方が企画実践したまちづくりテーマが、いわゆる都市計画の専門分野をいくつもまたがったものが多かったのも、このことの素直な反映と見られる。

ただし、防災・防犯を主たるテーマとして掲げた小学生・保護者・教師などを含む地域レベルのまちづくり活動は、住民団体や行政を主体として近年全国で行われるようになってきている。まちづくり教育がさらに継続して行われ、毎年段階を追って学習が進み、また保護者や地元自治体などを巻き込んだ活動として熟成していけば、防災や防犯について特に課題のある地域から、これを中心テーマとした効果的なまちづくり教育プログラムも必ず企画・実践されることになるだろう。

②小学生の反応では、楽しく、新しいことをたくさん学べる喜びが感じられた

実施されたワークショップ、発表会、シンポジウム報告内容を見ると、小学生にとってこの学習は、机に座って教科の講義を聞く通常の授業より、楽しく面白い体験であったようだ。まちづくりという未知の分野のさまざまな知見に触れ、また実社会との接点を体験したりすることに、好奇心をそそられ、積極的に参加する様子が見えた。また、学習のプロセスで、パソコンを使いこなしたり、学校外の人々の前で発表したりすることも含めて、子どもは学習を通じてどんどん成長する存在であることがあらためて実感された。

先生方にとっては、行政との連携を含めて、通常の教育活動の範囲を超えた取り組みが求められ、負担が増すことにはなるが、実践した先生方からは、子どもが楽しみながら学習力を高める効果に大きな手ごたえを感じた様子が見られた。

③地域のまちづくりにとって成果が期待できる内容である

実施されたワークショップ、発表会に参加した行政担当者などからは、学習内容はもとより、小学生の挙げたまちに関する疑問や指摘、提案が「素直なだけに的を射ている」「（提案は）専門家の考えと同じ」など、驚きや喜びの感想が多く聞かれた。実際に小学生の提案を、これからの役所の計画に何らかの形で反映したいとする声もあった。まちづくり教育は、教育面だけでなく、地区レベルのまちづくりという視点からも長期的に大きな成果が期待できるということが、行政担当者にも認識されたようだ。

④校外の人や機関との連携・協働が効果を高めている

①～③は第一に先生方の指導力の高さによるものであるが、協力した行政担当者など専門家や、保護者を始め多くの人々の熱意の反映でもある。

質の高い教育内容を実践するには、保護者を始め、お年寄り・障害者・外国人・地元企業・来訪者などを含むまちにいる人々や、関係する公共施設、行政の協力は不可欠であり、行政担当者などが来校し授業に参加している事例を見ても、専門家のお話や質疑応答ということで児童生徒の反応は鋭く、まとめも一段と充実した内容になっていることから、校外の人々の参加が学習を深める効果があるのは明らかなようだ。

ただし、このような新しいまちづくり教育は、先生や学校にとって負担が増すことは間違いない。単純に、街歩きなどでは、児童生徒が事故などに巻き込まれた場合、責任問題なども起こりうる。また、校外の機関等との連携という点では、先生の側からは行政へのアプローチが難しいという声もあり、シンポジウムではアプローチのノウハウについて語られる場面もあったが、行政などにとっては本来の業務との調整が難しい場合もある。学校・先生方自身や保護者、地域住民を含め、こうした関係者の負担増については十分な配慮が必要で、役割分担やサポート体制、無理のない参加方法などを見出していく必要があるだろう。